

# ぜひいじみたら

安原

## まつもと空き家プロジェクト 1周年 信大から表彰される

4月4日に行われた信州大学の入学式で、昨年度に活躍した10の団体と個人が表彰され、萩町で活動している「まつもと空き家プロジェクト」が信州大学同窓会連合会賞を受賞しました。空き家を利用した地域との交流拠点「ロツピキ」を開設し、種々のイベントを通じて学生と住民のつながりを深めることで地域貢献し信州大学の名誉を高めた功績が認められたものです。賞を受けたプロジェクト共同代表の増川千晶さん（農学部3年）と東礼華さん（工学

部3年）の2人は「私たちの活動が大学の目に留まり、評価していただけた」と喜びを語っていました。

4月からプロジェクトは4年生1人と2・3年生4人ずつ、合計9人で活動しています。週末のイベントのほか、毎週水曜日夜にはご飯会を開き、木曜日夜には2年生が常駐するようにしました。ご飯会には学生だけでなく、仕事帰りに立ち寄る人もいるそうです。

1周年を迎えた5月7日には、記念イベントとして絵の制作とご飯会を行いました。メンバーは「ロツピキ」で



表彰状を手に持つ増川さん（左）と東さん

のいろいろな人との出会いと会話を何よりも大切にしています。「今後は入りやすく過ごしやすい空間をつくらしていきたい」と抱負を語ってくれました。

## 学校の枠を超えて 春季球技大会 5月14日に開催

春季球技大会（安原地区子ども会育成会主催）が5月14日、旭町小学校の校庭で開催されました。参加した小学生203人が低・高学年に分かれ、それぞれドッジボールのリーグ戦を行いました。

前日の雨も上がり、晴天の中、最高のコンディションの下で行われました。開会式に集まった子どもたちは、各チームのキャプテンを先頭に

列をつくり、子どもたちの代表が進行役を務めました。試合が始まると「がんばれ、〇〇ちゃん」と応援の声が広がりました。アウトになつて残念がる子どもたちがいたり、上級生が作戦を考えて相談したりしていました。

安原地区11町会から自主的に参加した子どもたちは、それぞれ旭町小、附属小に通っています。校内の行事とは異なる



なり、学校の枠を超えてチームを組みました。大会は「安原地区子ども会育成会」の構成メンバーが、大会を通して子どもたちの自主性を伸ばす目的で毎年開催しています。

子どもたちは通学している学校の垣根を超え、友だちと一



ちと一緒に本気になって体を動かす、すがすがしい汗を流していました。そうした姿に関係者は温かな眼差しを注いでいました。

## いちよう並木

「夏の花タチアオイと仲間」  
タチアオイは中国原産のアオイ科の植物で、育てやすい花です。茎はまっすぐに伸び、高さも2メートルを超え、葉には浅い切れこみがあり、上に行くほど小さくなります。葉柄のつけ根に10センチほどの花をつけ、根元から上に向かって次々と咲き上がります。

花の色は赤、白、紫、黄色、桃色などいろいろです。咲き方は一重から八重咲きと品種的にもたくさんあります。

「タチアオイ」の「タチ」は、花のついた茎が高く直立することから名づけられました。咲き終わるころ、梅雨が明けるといわれております。



タチアオイ

### 旭町中学校の校長に着任 中林 勝彦さん

長野市の大岡中学校から転勤しました中林と申します。「中学生は未完成ですが、完成していると考え、一人の人間である」と心掛けて接しています。

教頭を6年務め、校長4年目です。国語の授業中、生徒の思いもよらない文章解釈に驚かされたり、感心させられたりしたことが多々あり、今の私があります。

子どもたちの教育は地域社会活動でもあると思っておりますので、地域での活動の場を与えていただくようお願いいたします。

困難を経験することによって立派な人間になる、との意の「艱難汝を玉にする」を座右の銘にしています。

サッカー、ゴルフ、登山と多趣味。読書は欠かささない。夫人と2人暮らし。



抱負を語る中林校長

## 地域に広がる花いっぱい

### 旭町小学校児童と住民が作業



花の苗を植える児童たち

旭町小学校(鏡味洋子校長)の4年生がこのほど、西門脇花壇にマリーゴールドとサルビアの苗を植栽しました。「花いっぱい運動」発祥の学校を彩りたい、との取り組みで、作業には地域の人たちが協力しました。

国道143号に面した約30メートルの花壇では、安原地区公民館の関係者や有志など10人が事前に石拾いをしました。4年生62人は5月30日に花



花壇の石拾いに汗を流す住民

の苗100本を丁寧に植え、苗がしっかり根付くように水をかけました。

昨年が続いての植栽でした。同小の元教諭で「花いっぱい運動」を提唱した故・小松一三夢さんを称え、「総合学習」の一環として西門一帯にマリーゴールドなどの花壇をつくったのです。

### 3R行動とUSIN計画 岡谷市の広域ごみ処理施設を視察

安原地区各町会新旧環境衛生部長・緑化推進委員、まちづくり協議会役員が6月6日、岡谷市にある諏訪湖周クルーンセンターecoポッポへ視察研修に行きました。

この施設は諏訪湖に面した岡谷市、諏訪市、諏訪郡下諏訪町の2市1町による広域のごみ処理施設で、3R行動(リデュース:ごみを減らす、リユース:繰り返し使う、リサ



ごみピットを見学する参加者たち

イクル:再生利用)による循環型社会の構築を目標に昨年12月から稼働しています。

1日に可燃ごみ110トンが処理でき、焼却熱による発電で施設内の全電力が補え、余剰分は売電しています。排ガス中の有害成分は濾過機により安全基準をクリアして排出、中央制御室で24時間管理をしています。

見学者設備もありゲーム感覚で分別や環境の大切さを学べます。施設内は明るくとても清潔でした。参加者は、ごみを減らし資源を再利用する循環型社会を目指す3R行動について理解を深めました。



児童たちを前に説明する滝澤館長

4年生児童の活動は「花いっぱい」を地域に広げる新たな起点となりました。昨秋の種は県松本養護学校に持ち込まれ、養護学校の生徒が苗に育てました。その苗は公民館南側の一角に植えられ、いま利用者の目を楽しませています。

鏡味校長は「子どもの思いを大切にしてくださる地域の皆さまのおかげで、花いっぱい運動ゆかりの本校から、子どもと地域が心をひとつにしてつくる新たな花いっぱいが始まっています。心より感謝いたします」と話していました。

【訂正】前号の29年度安原地区公民館委員の名簿で運営委員の金井俊二さんを文化委員に、文化委員の中野孝之さんを運営委員に改めます。